

2020年1月6日

2020年商事始め式社長挨拶

近海郵船グループ海陸役職員の皆さん、明けましておめでとうございます。
商事始めにあたり、ひとこと挨拶いたします。

まず昨年を振り返りますと、元号が改まり世の中の雰囲気には何かしらリセットされたような明るさが出てきたほか、ラグビーワールドカップの日本チーム大活躍で私を含めて多くの日本人が元気をもらいました。

一方で天候面では、夏に九州で豪雨となり、秋には東日本の広範囲に豪雨被害が発生、11月・12月は日本海北部の強い低気圧によって敦賀・苫小牧航路で欠航が多くなったのはまことに残念でしたが、当社の運航・運営においては大きな事故が無かったこと、幸いでした。皆さんの日頃の尽力のおかげと、この場を借りて感謝申し上げます。

また、沖縄では首里城が焼失したことは大きなショックであり、当社と「しゅり」の船主である瀬野汽船と共同で支援金を拠出しましたが、沖縄県民の皆さんとともに早期の再建をお祈りいたします。

当社事業の面では、4月に敦賀・博多航路を開設したことを筆頭に上げたいと思います。奇しくも新しい元号が「令和」となる発表の日に航路がスタートしたこともあり、またモーダルシフトや物流の複線化の機運が高まっている時期の航路開設であったことから、関係各方面では大きく取り上げられました。未だ水面下ではありますが、北海道出しの接続貨物が想定を上回る手ごたえがあり、中部・北陸地域でも徐々にお取引先の幅も広がり、新規航路の商品設計が間違いではなかったとの思いを強くしております。福岡営業所も新規マーケットの開拓に邁進してくれています。

北海道航路は各拠点の皆さんの尽力で前年に引き続き順調に推移しており、誠に心強く思っております。

近郵船舶管理は、「とちち」の新規航路投入や Sox 規制適合油の使用に向けた準備に尽力してくれました。又、「船内人身事故の防止」を冬季の安全重点項目に掲げて取り組んでもらっています。

さて今年「子年」です。この文字はタネが芽吹くという意味が込められているそうです。敦賀・博多航路のこれまでに蒔いたタネが今年一斉に芽吹くことを期待したいと思います。

また、適合油の使用が年始から始まりました。ハード、ソフトでの十分な事前対応ができており心配はしておりませんが、なにせ燃料油の全面切り替えという大きなイベントですから、何が起こっても慌てないという心づもりで対応を進めてまいりましょう。

近郵船舶管理は、傷病の撲滅と船舶管理品質の向上に向けて取り組んでください。管理部門は経営品質の維持・向上に引き続き尽力をお願いします。

他にも、昨年の消費税引き上げや米中・日韓関係のギクシャクが国内荷動きに与える影響の見極め等いろいろとありますが、全社一丸となって乗り切っていけるものと信じます。

いつも申し上げることですが、明るく前向きにチャレンジしていくために、皆さんの心身の健康と組織の健全が基盤となります。経営としてもそのために尽力するつもりです。

今年1年が良い年となりますよう、すべての航海が安全でありますよう、皆様とご家族のますますのご健康、ご多幸をお祈りして、私の年始の挨拶といたします。

以上